

筑前国怡土庄故地現地調査速報

服部，英雄
九州大学大学院比較社会文化研究院：教授

<https://doi.org/10.15017/1520164>

出版情報：1999-12-31. 服部英雄研究室
バージョン：
権利関係：

福岡市今津

椿 真由美
荒木 正帆

【初めに】

今回は大歯辰美さん（今津公民館長）と会うことになっていたのですが、当日大歯さんの紹介で木下寿一さんに会ってお話を聞くことができました。ここでは木下さんが公民館での老人会の講演の際に作製されたプリントに添ってレポートを書きましたが、小字の由来、分類法、潮、風については木下さんの推測と感覚をもとに話していただいたものをそのまま載せています。本来の調査では住宅地図に書き込む予定でしたが、今津の地籍図が手に入らず、大歯さんから小字全図を頂いたことと、住宅地図では分かりにくいことから小字全図を使用しました。

地名については独教大 吉田キング先生

二丈町 小金丸トシミツさん

が詳しいので尋ねてみたらよいと言われました。

【小字の由来】

1. 地形

- 牛の足形…牛の足に似ているから

2. 寺院

- 大少路、寺少路、中少路、後少路など…交易地（京風の少路）であったから

（誓願寺の影響…大泉坊、正権院、大日坊、金剛坊、毘沙門、三廻田、門戸口、口戸、千足

勝福寺の影響…大少路、寺少路、中少路、後少路、道場崎、荒神堂、神音堂、釈迦堂、釈迦山、

堂崎、坊地、臍塚、阿弥陀山、裡ヶ淵、旦過、神湾灘

今津…真言宗が広がり、衰退して後禅宗が広がる。

↓

勝福寺が誓願寺領を押領していく。

そのため、400年間で寺が100ヶ所もできた。（勝福寺系…25、誓願寺系…45）

3. 神寺

- 宮ノ脇…四所神社の脇にあるからだと思われているが、以前の仁和寺領今津ノ宮の脇にあったため

- 妙見島…本当の名は宝島だが、漁師が祈る妙見様の名で呼ぶため

登志神社は郷として残っていたため歴史的に重要

4. 港

- 唐船州…唐船が沈没して飛ばされてきたため

5. 歴史

- 後田…前海に対して元寇防塁の後濱

- 庄ノ尻…怡土庄の最後の領地であったため

- 免ヶ岳…租税が免除されたからでは

6. 製鉄…今津の地名金丸は鉄に由来するのではないか

7. 焼物

- 柑子口…毘沙門から見ると土地が焼物の形に見える。

このことを柑子口というから



8. 苗子…豪族が発生しなかったので苗字に由来すると思われる地名はひとつ

- 松隈土手…中世末期の豪族＝松隈氏

松隈村長さんが土手を作ったから

9. 名前

- 九郎ノ森…武将の墓

10. 祠…神社が多いため祠（塚）も多い

11. 気候

- 生立…北風がなく日が入る恵まれた土地
- 姥ヶ懐…懐にいらるぐらいあたたかい

12. その他

- 女坂…豊後大友氏の城のそばには女坂という地名がでてくる所が多いのでその影響か
- 津船…船がついたから
- 皆討浜…白村江の戦いで帰ってきた人が「皆討ってきたぞ～」といったからでは
- 鯉川…先祖がほったであろう川

〔水利慣行〕

- 初めは「水路はない」とおっしゃっていたが、尋ねていくと「溜池は10ヶ所ある」と言われた。木下さんの話では『福岡県地理全誌』に載っている通りとのこと（実際に持って行った全誌のコピーをご覧になられて）。
- 小字全図の青線が、その溜池からの水利を表している。
- 西に溜池が集中している。又誓願寺や勝福寺といった有力寺社があるため古く感じられるが、実際には東の方が古い遺跡が多い。
- * お話の限りでは、あまり稲作、畑作といった農業は主流でなかったように思えた（関心というか話の重点があまりなかったのだ）。

〔潮流・風〕

- 北風が入らず恵まれている。
- 今津自体、豪族がいなかったのと、位置的にも勢力者と距離があるので、戦乱に巻きこまれない。
- 潮流も穏やかで、海難もほとんどない（ただし、対馬海流のため、玄海灘は厳しい）。
- * 以上のことより、今津港は非常に恵まれており、今では想像できないほど栄えていたと考えられる（木下さん談より）。
- * 対馬・杵岐との往復に適した季節はよく分からないとのこと。
（潮と風は漁師でないとわからない。ただ、今津港の上記の状況から考えると、ほぼ1年を通してわりと行来しやすかったのでは、ということだ。）
- 港が栄えれば当然船乗も必要になってくる、というわけで船員教育が行われていたらしい。そして、そのことが地名の由来になった例もある。（例：周船寺）

〔筑前國續風土記「今津に七不思議あり」との記載について〕

＊冊子（パンフレットのようなもの）に、箇条書程度でまとめて書いたらしいのですが、私達が行った時には公民館にはもうなくなっていたので憶えていらっしゃる限りで…。

（郵便局長（？）さんが所有しているらしいです。）

- 今津のサザエには角（トゲトゲのこと）がない。

- 〇〇神社には雀さえとまらない。

⇒鎌倉幕府の御威光がそれだけすごい

- 今津の男性はよく働く。

⇒船乗りなので

- 穴を掘り、官桶を入れ、土をかぶせる。すると官桶の分だけ土は余るはずなのに、必ず足りなくなる。

⇒地盤が砂地なのでは

〔伝説地名〕

- プリント2の「伝説地名」について。これは今津七不思議とは全く関係なく、プリント3の歴史とも異なる。

- 津船崎…小字参照

- 皆討浜…小字参照

- ユルリガ淵…昔、勝福寺には大きな松があった（昭和20年に枯れたが、国の重要文化財指定だった）。

そこに竜が住んでいた。⇒バンリュウマツ（万竜松）

その松の下には地下道があり、海岸まで続いていた。その地下道をユルリガ淵と呼ぶ。

⇒海岸に帽子を置いておくと、翌日勝福寺の境内に置いてあった（らしい）。

- 神湾崎…ユルリガ淵の別名

〔今津の道〕

- 神社は城の役割だった（一国一城なので神社で代用。特に今津は神社の数が多かった）。そのため、ストレートに攻め込まれないよう丫とせず乚とした。道が細く、入りくんでいるのは、神社の勢力均衡が背景にある。

〔まとめ〕

- 今津には地籍図がないので、小字の名前や位置関係は分かりにくいのでは、と心配していたが、実際に訪れてみると、公民館のサークル（木下さんたち）が中心となって古い景観を守り次世代に伝えていこうとしており、その活動の一環として、プリントのようなものや、冊子・パンフレットを作製している。又、太少路・小少路・仁王門など、木の板に字名（道名）を書いたものをその場所に掲示して、外来者にも分かるようにしてある。
- 今津の方に調査に来られた方には、まず毘沙門山に連れて行って今津の土地全体を見てもらったあとで、案内するようにしている。そうすることでイメージし易くなるとのこと。私達も毘沙門山に連れて行ってもらい、一望した。
- 公民館（大歯さん）の方に連絡すれば、木下さんと会えるそうです。

〔感想〕

今回は今津の地名の由来を中心に話を聞いたが、納得できるものもあれば不思議なものもあった。今回一番感じたのは、公民館を中心として今津の歴史を熱心に研究しているということでした。パンフレットの作製も自ら写真を撮るなど努力されているなあと感じました。

余談になりますが、今津公民館はとてもアットホームな暖かい雰囲気、気軽に入れるという印象を受けました。

今回の調査はとても楽しくできました。

椿 真由美

今まで佐賀の方と怡土郡に調査に行ったわけだが、今回の今津が一番小字名や古い景観の維持に積極的であると思った。特に地元の人たちでサークルを組織して冊子やパンフレットを作製するのは、非常に素晴らしいことと思う。日本人の家は昔から道路と面している。つまり、道は日本人の生活の場であり、その道（地名）を知ることは当時の状況を知る有力な手段である。木下さんも服部先生の怡土・志摩の地名収集と古い景観の復元などを非常に高く評価してくれた。お話の中では七不思議など多少疑問を感じる場所もあったが、興味深くおもしろかった。

毘沙門山から、九大移転先の山を見て、これでまたこの景観が変わっていくと思うと、何か寂しいような不思議な気がした。現地調査という、他のゼミでは味わうことのできないいい経験をしたと思った。

荒 木 正 帆

〔今津レポート補遺〕

1999年9月 木下仁蔵氏（明治44生まれ）、大齒辰美（今津公民館長）より聞き取り

通称地名としてウシクビ、ニョーモン（仁王門）、上町。ウシクビは毘沙門山下の玄界灘に面した鼻。釣り人がたえないが、アジアからの密航者がしばしば漂着した。また小字の旦過はタンバと発音、千足は現地看板は「千僧供」になっているが、チソクということなどを確認した。なお鷺城は城のとのさまのお姫さまの城だった。またタンバに隣接して「旦過坂」の看板がある。タンバは勝福寺旦過寮に関わる重要地名である。

服 部 英 雄

This is a detailed black and white topographical map of a mountainous region, likely in Japan. The map is oriented with the mountain peaks on the left and the coastal area on the right. Key features include:

- Topography:** The left side of the map is dominated by a large mountain range with numerous contour lines indicating steep slopes and peaks. The right side shows a more gradual, coastal area.
- Infrastructure:** A network of roads and paths is shown, including a prominent road running vertically through the center. A harbor or bay is visible on the right side.
- Landmarks and Labels:** Numerous Japanese characters are scattered throughout, identifying specific locations and landmarks. Notable labels include:
 - Mountain Peaks:** 山 (Yama) - Mountain.
 - Coastal Area:** 海岸 (Kaigan) - Coast.
 - Harbor/Bay:** 湾 (Wan) - Bay.
 - Temples and Shrines:** 寺 (Tera) - Temple, 神社 (Shinja) - Shrine.
 - Other Labels:** 田 (Iri) - Field, 池 (Ike) - Pond, 谷 (Tani) - Valley, 川 (Kawa) - River, 橋 (Hashi) - Bridge, 城 (Jou) - Castle, 学校 (Gakko) - School, 病院 (Byouin) - Hospital, 駅 (Eki) - Station, 港 (Minato) - Port, 山 (Yama) - Mountain, 谷 (Tani) - Valley, 川 (Kawa) - River, 池 (Ike) - Pond, 田 (Iri) - Field, 畑 (Hatake) - Farm, 園 (En) - Garden, 林 (Rin) - Forest, 原 (Hara) - Plain, 野 (No) - Field, 地 (Chi) - Land, 所 (Sho) - Place, 方 (Hata) - Direction, 向 (Mu) - Facing, 側 (Gawa) - Side, 端 (Hata) - End, 角 (Kaku) - Corner, 間 (Ma) - Space, 中 (Naka) - Middle, 内 (Uchi) - Inside, 外 (Soto) - Outside, 上 (Ue) - Up, 下 (Shimo) - Down, 前 (Mae) - Front, 後 (Ushiro) - Back, 左 (Hidari) - Left, 右 (Migi) - Right, 東 (Higashi) - East, 西 (Nishi) - West, 南 (Minami) - South, 北 (Kita) - North.

This is a detailed black and white topographical map of a mountainous region, likely in Japan. The map is oriented with the mountain peaks on the left and the coastal or urban area on the right. Key features include:

- Topography:** The left side of the map is dominated by a large mountain range with numerous contour lines indicating steep slopes and peaks. The right side shows a more gradual, hilly terrain.
- Water Features:** A river or road system flows through the center of the map, with several smaller streams branching off. The coastal area on the right is marked by a dashed line representing the shoreline.
- Landmarks and Labels:** Numerous Japanese characters are visible throughout the map, including:
 - 山 (Mountain):** Used to label various peaks and ridges.
 - 谷 (Valley):** Used to label the central valley.
 - 川 (River):** Used to label the main waterway.
 - 城 (Castle):** A prominent label on the right side, near the coastal area.
 - 寺 (Temple):** Several labels for temples are scattered across the map.
 - 神社 (Shrine):** Labels for shrines are also present.
 - 町 (Town/Village):** Labels for various settlements are visible.
- Infrastructure:** The map shows a network of roads and paths, some of which are marked with dashed lines. A railway line is also visible on the right side.
- Style:** The map is a high-contrast, line-art style illustration, typical of older Japanese topographical maps.